

会議記録

会議の名称	第4次熊谷市地域福祉計画・熊谷市地域福祉活動計画推進委員会 令和6年度事業進捗状況報告会
開催日時	令和8年3月25日（水） 午後1時30分から2時50分まで
開催場所	熊谷市立商工会館大ホール
出席者	委員 12名 事務局 7名
傍聴人	0名
問い合わせ先 (所管課)	熊谷市福祉部福祉総務課 電話 048-524-1111（内線591）
内容	<p>【議事1】副委員長の選出について 【内 容】副委員長 田中委員</p> <p>【報告1】令和6年度事業進捗報告について 【内 容】第4次計画に紐づけられた事業について、令和6年度の進捗状況を報告した。</p> <p>【主な質疑・意見】 (質疑) 基本目標1内の「夏のボランティア体験プログラム事業」について、コロナ禍からリカバリーしたと感じている。小・中学生が中心だと思うが、年齢を鑑みるに直ちに地域福祉の担い手につながるの難しいと感じている。地域福祉の担い手となる50～60代の方が、地域活動に参加していただける機会がないと、次につながらない考える。50～60代をターゲットとした、地域活動のプログラムはあるか。もしなければ、今後の見通しを伺いたい。</p> <p>(回答) 50～60代をターゲットとして「ボランティア養成講座」を開催している。令和6年度は傾聴講座を開催し、傾聴ボランティアが施設や一般の方々から要望があるため、本講座を開催して、対象者にボランティア要請をしている。受講者は多く、A評価としているが、実際に活動につながっている人数は、受講を受けた方の1/3～1/4位である。活動につながらなかった参加者からは、「自分が求めている</p>

ものと違う」と、明確な回答は得られなかった。現状としては、講座には参加いただいているが、ボランティアにつながる人数は少ない状況である。

(意見) ボランティア参加のきっかけづくりとして開催されていることがわかった。実際の活動につながると、なおよい。具体的に、「こういった施設で」「こういった場面で」行っていただく場面設定など、社会福祉施設の受け入れを理解していただくことも併せて検討いただきたい。

(回答) 受け入れについては、施設からの要望により定まっているので、すぐ活動に移せる状況である。

(質疑) 基本目標 1 内の「子育てサロン」の設置区域は、どのような割り振りで設置しているのか。小学校区か。未設置地域への取組は？高齢化による担い手不足とのことだが、地域としてどう捉えているのか。

(回答) ここに記載の「未設置地域」というのは、高齢者向けのサロンを指している。割り振りは、小学校区を目標にしている。地図でみると、偏りが生じている。最近、「ニャおぎね元気体操」という、高齢者の体操を目的とした取り組みについても、新たにサロン助成金交付の対象としたことから、令和 6 年度から 7 年度にかけて約 20 サロンほど増加した。

(回答) 「子育てサロン」の評価について、D としているが、これは社会福祉協議会が主催のサロンである。江南 1 か所の開催であるが、活性化していないと判断していることからこの評価とした。その他、民間団体の主催サロンについては、評価に含まれていない。

(意見) 民生委員を務めており、地域で高齢化向けのサロンを実施している。コロナ禍で地域のつながりが希薄化したことから、「サロンだより」を作成し、回覧板で周知している。地区には 4 つの自治会があり、金銭的なサポートを受けながら実施している。月 1 回の開催だが、雰囲気が良い。「子育てサロン」については、本市の主任児童委員が主催している。長らく開催しているが、一時、「待機児童ゼロ」の取組もあって、サロン参加者が減少した。その後、市 HP 等で周知したことにより、参加者の増加につながったと

	<p>聞いている。情報発信、広報が大切であると感じた。</p> <p>(質疑) 開催に当たり、御苦労されていることや、我々と共通認識を持った方がよいことなどあるか。</p> <p>(回答) 広報で広めることは大事である。当地域でも、ニャオざね元気体操を中心としたサロンを開催している。週1回実施し、年間計画を作成し、配布している。参加者の誕生日が含まれる月にはイベントを実施し、毎週30人程度が参加している。筋肉をつけるのは大事で、体力測定で効果が出た。参加者の元気が出てきたと感じている。また、年2回は小学生の参加も可能としていて、その際にはゲームをしている。三世代交流になるので、広げていきたい。</p> <p>(質疑) 活発な地域の良い情報を、未設置地域に伝えるには、どうしたらよいか。事務局で考えはあるか。</p> <p>(回答) 令和8年度に、サロンの主催者と対象とした意見交換会を開催予定である。この取組を通じて未設置地域にアプローチできれば。</p> <p>(意見) 自分自身、元気体操は2か所参加している。元気体操の講師を「さくらフィット」というが、「さくらフィット」向けの交流会が3年前から年に1度開催されている。妻沼地域はこの場で、情報交換しながら活動している。</p> <p>(意見) 長寿クラブに所属しているが、「長寿クラブだより」に活動写真を掲載している。写真を掲載することは効果的であると感じている。</p> <p>(質疑) A委員に質問だが、様々な交流の場があっても「行かない」「行けない」高齢者がいると思うが、そのような方に結び付けることはできないのか。</p> <p>(回答) そのような方は、移動の足が無いのが大きな問題である。通院、買い物なども「行けない」とおっしゃる方は多い。近い・遠いの問題ではなく、家からなかなか出られないことが、社会参加への大きな障壁となっている。引きこもりではないが、地域で孤立している方もおり、そのような方には地域包括支援センター職員が何うようにしている。お話をうかがうと、「経済的・移動手段などの理由で社会参加できない」と聞く。</p> <p>(意見) 移動の問題があること。また、主体的に「出ていかない」選択肢を取る方には、専門職による個別のアプローチを</p>
--	--

しているけれども、社会参加につながらない課題があるということがわかった。

(意見) 自分の周りにも、1人では歩けない男性がいる。その方は、近所の方が会場まで送迎をして、サロンに参加している。男性は、参加しだしてから、笑顔が多くなったように思う。こういった方々の移動手段については、行政等に全て頼るのではなく、可能な部分は、地域でカバーした方がよいと思う。

(意見) 全てのサロンが「送迎をしてください」というとハードルが上がると思うが、送迎サポートをすることで活発な活動につながっているという事例を公表いただいた。ぜひ、こういった情報共有を市内でしていただきたい。

(質疑) サロンの未設置地域への働きかけの主体はどこになるか。市か、社会福祉協議会か、それとも地域包括支援センターなのか。

自身は、A地域で3つある元気体操のうち、1つに参加している。過去に、「奥さまが入院されたことをきっかけに、旦那さんが单身となり身体が弱ってしまい、地域包括支援センターの紹介で、元気体操の場に参加することとなった」事例がある。

(回答) サロン活動については、社会福祉協議会が支援をしている状況もあることから、働きかけの主体は社会福祉協議会が中心となる。社会福祉協議会に生活支援コーディネーターを配置しており、地域包括支援センター等から「地域で孤立している方がいる」など情報提供があった際には、必要に応じてサロンにつなげている。

(意見) 社会福祉協議会と記載した方が分かりやすいのでは。

(回答) 資料1には記載はないが、事業ごとの進捗を記載した資料3には記載がある。また、第4次熊谷市地域福祉計画・熊谷市地域福祉活動計画にも、社会福祉協議会と記載している。

(意見) 整理をすると、サロンというのは、民間のボランティア、そして、思いを持った方の活動なので、市が「やりなさい」と言ってやっていただく性質ではない。そういった観点で言えば、市がサロンの設置について「お願い」をしたり、

「設置を進める」のは役割ではない。ただ、サロンに参加する方という観点については、市に初めて相談に来た方や、市だけが知っている方などは、社会福祉協議会や地域包括支援センターに情報共有し、社会参加してもらえるように促していく、という建付けであると思う。

(意見) 基本目標3で市民相談業務の記載がある。行政だけが相談機関となるのではなく、民間や事業所が市民との間を取り持つと、地域住民も相談しやすいのではないかと感じている。住民主体には限界があるのではないかと感じている。サロンの場などに積極的に参加する方は、情報のアンテナが高い方である。本当に支援が必要な方は、そうではない方なのではないかと、自身が病院で働く中で思うところである。

困難ケースが増加傾向である。旦那さんが泌尿器科に通われている方で、奥さまが認知症と知的障害を患っており、その子も知的障害を患っているケースを対応した。地域包括支援センターも様々な困難ケースを扱っていると思うが、支援が行き届いていないことがある。そのような方が病院を受診したタイミングで、民間の相談員が情報を聞き取り、支援制度やサービスをお勧めできると拡がりがあると感じている。

(質疑) 資料1・4ページに「ヤングケアラー市内連携会議」の記載がある。6課で組織しているとのことだが、具体的には？

(回答) こども課を中心として、長寿いきがい課、福祉総務課、生活福祉課、障害福祉課、学校教員課で組織している。ヤングケアラーの事象が、それぞれの所管で発見され、対応の必要がある場合に、関係課の職員が集まり会議を開催することとなっている。

(質疑) 実際、会議は行われたのか。

(回答) 会議の開催はしているが、具体的なケース検討には至っていない。体制を整えたところである。

(意見) 福祉を目指す学生の面談をしていると「自分はヤングケアラーでした」と話す学生がいる。そういった学生に「今まで相談できたか」と確認すると、中学生くらいであると「自分がヤングケアラーである」という認識がなく、相談でき

る立場であるという認識もない状況であることがわかる。庁内会議に教育委員会を含めることは大切ではあるが、子ども食堂など民間で掴んでいる情報があれば、共有してもらえるような仕組みづくりが必要である。

(意見) 基幹相談支援センターの委託を受けている。職員を守るという視点で、対応が難しい案件があった。利用者との立場ではあり、また適切な言葉ではないことを承知の上で言わせていただくが、カスタマーハラスメントで施設職員がトラウマとなっている。福祉の専門職として民間でできることの限界を感じている。そういった中で、市のケースワーカーや社会福祉協議会が中心となって動いていただくと、専門的なアプローチや判断が早い段階でできると感じている。

(意見) 支援を提供することはもちろん大切であるが、支援を提供する側のメンタルヘルスや持続的に提供することも大切である。今回の計画では、担い手の質の向上は組み込んでいても、担い手の「確保」や「守る」という部分の記載はなく、新たな視点である。今後の課題である。

(意見) 全国規模の課題であるが、介護人材不足である。現在、ボランティア体験や職場体験の受け入れを行っているが、小中学校が中心である。それ以外で、地域で介護人材の確保や育成の取組はあるか。

(意見) 介護人材不足に関連して。熊谷市赤十字奉仕団の委員を務めている。毎年、妻沼地域の老人福祉施設の避難訓練実施の際に、「ボランティア不足」との話が入り、奉仕団委員がボランティアで12名が対応した経緯がある。「ボランティアがいないと、介護関係の施設の事業が回らない」のだと思い、協力をした。ボランティア団体に依頼をすることで、解決できる部分もある。

(回答) 介護人材不足は全国的な課題であるが、解消に向けての取組は、市としては行っていない。今後、機会を捉え、市からも国や県に課題解決のための働きかけを行っていくようにしたいと考えている。

(意見) 県では「介護の魅力PR隊」を結成し、職員が高校や大学に出向き、PRを行っている。また、介護人材には外国人

も多くおり、そのような方々への支援、育成に係る情報共有も行っていると聞いている。今回の計画目標には組み込んでいないので、次期計画で検討していきたい。

(質疑) NPO 法人のイベント出展に際し、ボランティアが集まらな
いと聞く。ボランティアの担い手について、どう考えてい
るか。

(回答) 先ほどのボランティア育成につながる話かと思う。課題と
なっているのは、ボランティア団体立ち上げから 10 年、20
年経過し、中心となって動いていた方が高齢化し、団体内
の世代交代が上手くいかず、解散につながるケースが目立
つ。

新規団体は、ボランティア養成講座内で仲良くなり、立ち
上がる傾向にある。今後も、養成講座を開催することで、
ボランティア育成につなげることが、社会福祉協議会が本
事業に取り組む意義である。

(回答) 新規設立団体は、社会福祉協議会が事務局並びに支援を行
っている熊谷市ボランティア連絡協議会の会員にならずに
活動する傾向にある。新規設立団体と既存団体が同目的の
場合であっても、既存団体と引継がず別々に活動している
印象である。ボランティア連絡協議会に加入せずとも、必
要に応じて情報提供できるような体制を講じたい。

(意見) Aさんという県職員の方が、若い方を絡めて、ボランティ
アを一生懸命取り組まれている。多分他にもいらっしゃる
と思うので、ぜひクローズアップして、色々な方が参加で
きる仕組みづくりを整えられるとよいと思う。

(意見) 今回初めて出席した。昨年 3 月まで 20 年くらい熊谷に住
んでおり、ある程度地域のことはわかっているつもりであ
ったが、こういった福祉の活動については参加したことは
なかった。資料 1 で、ボランティア体験プログラムの目標
達成率が非常に高いが、ボランティアの担い手にはつな
がらないということが課題であると感じた。また、参加人
数を目標としているが、その後ボランティア活動に参加し
ているかどうかを目標に位置付けると、計画理念でもある
「人から人へ 心つながる共生都市くまがや一人ひとりが
いきいきと安心して暮らせる福祉のまち」につながると思

う。県としても協力していきたい。

(意見) 初参加であり、計画も初めて拝見した。評価でCとDがいくつかあるが、深いところに問題があって、簡単に解決できないと思うが、今後どう取り組んで行くのか、それぞれの部署で考えているのではないかと思う。

また、今回は令和6年度の評価であるが、現在は令和7年度の終わりである。報告が少し遅いと感じた。早く報告をした上で、今後の取り組みを検討する時間があると、幅広く取り組めるのではないか。

(回答) おっしゃるとおり、令和7年度の早い時期に報告をするのが本来である。取りまとめ自体は、早い時期に完了しているので、今後の開催時期については、早い時期に行うよう検討する。

(意見) 本計画には「熊谷市再犯防止推進計画」も組み込まれており、国の更生保護地域連携拠点事業へも参加することで、関係機関との連携も始まったところである。保護司会としても位置付けられた事業に引き続き協力したいと思っている。

(意見) 皆様から頂いた御意見等について整理すると、以下のとおりとなる。

地域活動、特にサロンについて、活動が活発な団体の取組状況を、広報誌等で未設置地域に広めていくことが重要である。

また、民間の相談支援の取組がある中で、相談機関同士のつながりや機関が得た情報を、お互いに共有することで、埋もれた地域住民のニーズ把握に役立てることが大切である。

担い手不足や、担い手へのカスタマーハラスメント等で大変な思いをされているということで、担い手へのケアや人材不足への取組が必要なのではないかという御意見をいただいたが、今期の計画に十分反映されていないため、次期の計画に向けて、担い手を確保していくための取組について、市や社協が取り組む必要があるということを確認いただきたい。

また、自身が興味のある部分として、災害時の取組について、避難行動要支援者名簿や個別避難計画について記載があり、推進の必要があると同時に、社会福祉施設の防災について、施設と地域社会の連携が重要であると提起いただいた。社会福祉施設や職員の仕事を地域の人に知っていただくことにもつながってくると思う。社会福祉施設は、災害時のBCP計画を立てることが義務化されているため、計画の推進とともに、地域住民と連動した取組も重要となってくる。

以上のことについて、事務局においては記録にしっかり留めておいていただき、本計画の推進と次期計画の策定に活かしていただきたい。

【報告2】意見書に対する概要と市及び社会福祉協議会の考え方について

【内 容】事前に委員からいただいた意見に対し、市及び社会福祉協議会の考え方を示した。